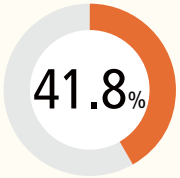
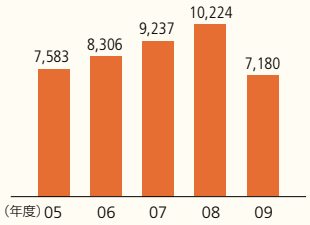
事業セグメント

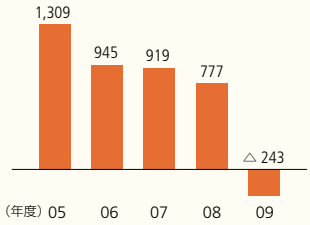
事業の概況

売上高構成比 | 売上高（億円） | 営業損益（億円）

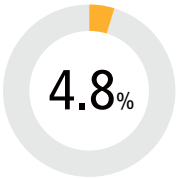
鉄鋼関連事業

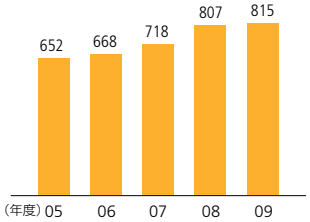


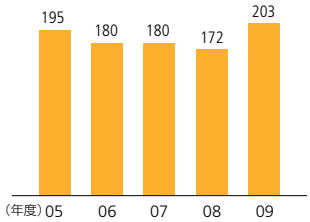




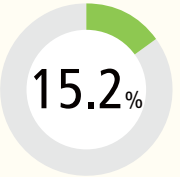
電力卸供給事業

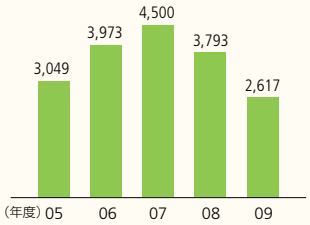


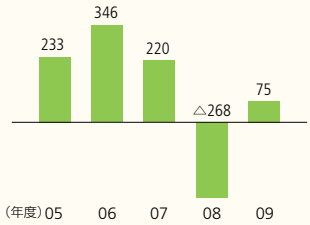




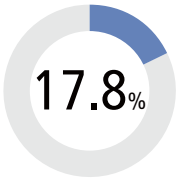
アルミ・銅関連事業

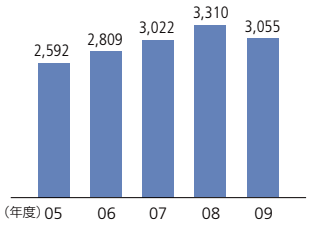


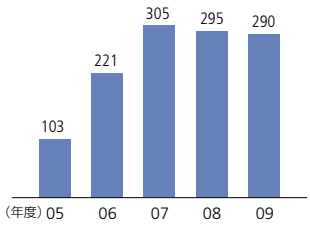




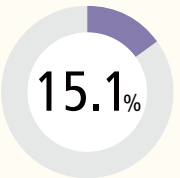
機械関連事業

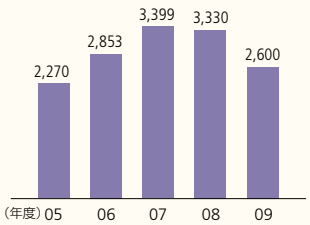


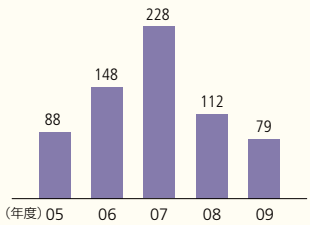




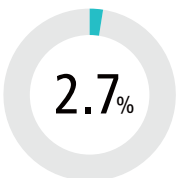
建設機械関連事業

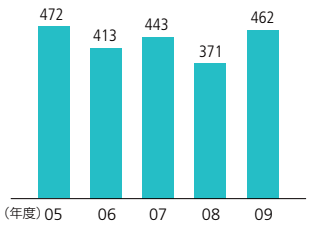


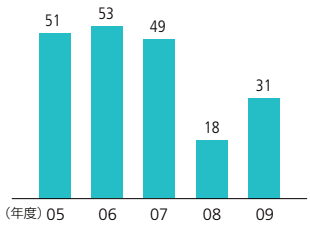




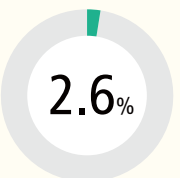
不動産関連事業

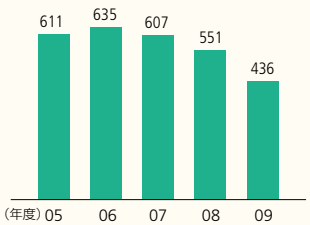


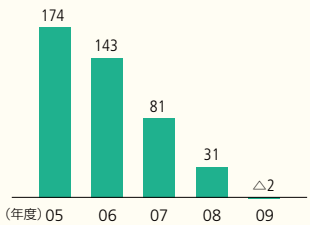




電子材料・その他の事業







（注）1. 事業セグメント別売上高構成比および売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでいます。

2009年度の鋼材需要は、国内において自動車や電機向け需要が第2四半期以降回復に転じ、中国を中心とした海外向け需要も増加しましたが、鋼材出荷量は、年度前半まで好調だった2008年度を下回りました。鋼材販売単価は、原材料価格が値下がりした影響などにより、2008年度に比べ下落しました。鋳鍛鋼品の売上高は、第3四半期以降、造船向け需要が減退したことなどから、2008年度を下回りました。また、溶接材料やチタン製品の売上高も、需要の低迷により2008年度を下回りました。以上の結果、2009年度の鉄鋼関連事業の売上高は2008年度比29.8%減の7,180億円となり、営業損益は2008年度に比べ1,020億円減益の243億円の損失となりました。

神鋼神戸発電所では1号機、2号機合わせて最大出力140万キロワットの電力供給体制が整っています。2009年度の電力卸供給事業の売上高は2008年度並みの815億円となり、営業利益は減価償却費が減少したことなどにより2008年度に比べ30億円増益の203億円となりました。

アルミ圧延品については、飲料用缶材の販売量は冷夏の影響などにより第3四半期以降減少に転じましたが、自動車向けや液晶・半導体製造装置向け需要は回復に転じました。しかしながら、アルミ圧延品全体の販売量は、年度前半まで高水準で推移した2008年度を下回りました。アルミ鋳鍛造品も需要回復の兆しは見られたものの、売上高は2008年度を下回りました。銅圧延品の販売量は、板条は2008年度に比べて増加しましたが、銅管は減少しました。販売量の減少に加えて、販売価格に転嫁される地金価格が下落したことから、2009年度のアルミ・銅関連事業の売上高は2008年度比31.0%減の2,617億円となりました。一方、営業損益は、減価償却費の減少やコスト削減などにより、2008年度に比べ344億円改善し、75億円の利益となりました。

自動車および石油精製・石油化学業界における設備投資が低迷したことにより関連製品の受注が減少しましたが、金属加工機械や還元鉄プラントなど一部の案件で回復の兆しも見られました。これらの状況により、2009年度の受注高は、国内向けが2008年度比1.6%増の1,304億円、海外向けが2008年度比42.1%減の637億円となりました。この結果、機械関連事業全体の受注高は2008年度比18.6%減の1,942億円となり、2009年度末の受注残高は2,407億円となりました。また、当事業の売上高は、大型ペレットプラントの売上が集中した2008年度と比べると7.7%減の3,055億円となり、営業利益は2008年度に比べ5億円減益の290億円となりました。

油圧ショベルについては、中国での販売台数が、春節明け以降内陸部を中心に2008年度を大幅に上回りましたが、低迷の続く国内や米国、欧州での販売台数はさらに減少しました。クレーンの販売台数は、北米向けが需要家の在庫調整などにより2008年度に比べて減少したほか、国内や中東向けについても、2008年度を大きく下回りました。この結果、建設機械関連事業の売上高は2008年度比21.9%減の2,600億円となり、営業利益は2008年度に比べ33億円減益の79億円となりました。

不動産販売において、分譲マンションの引渡しが順調に推移したことなどから、不動産関連事業の売上高は2008年度比24.5%増の462億円となり、営業利益は2008年度に比べ12億円増益の31億円となりました。

試験分析事業において、輸送機業界向けなどを中心に需要が低調に推移したことに加え、液晶配線膜用ターゲット材の価格下落と販売量の減少などにより、当事業の売上高は2008年度比20.9%減の436億円となり、営業損益は2008年度に比べ33億円減益の2億円の損失となりました。

(注)2. 神戸製鋼グループは、2010年度より事業セグメントを変更しました。上記の「事業の概況」は、2009年度までの事業セグメントにおける業績概況を掲載しています。